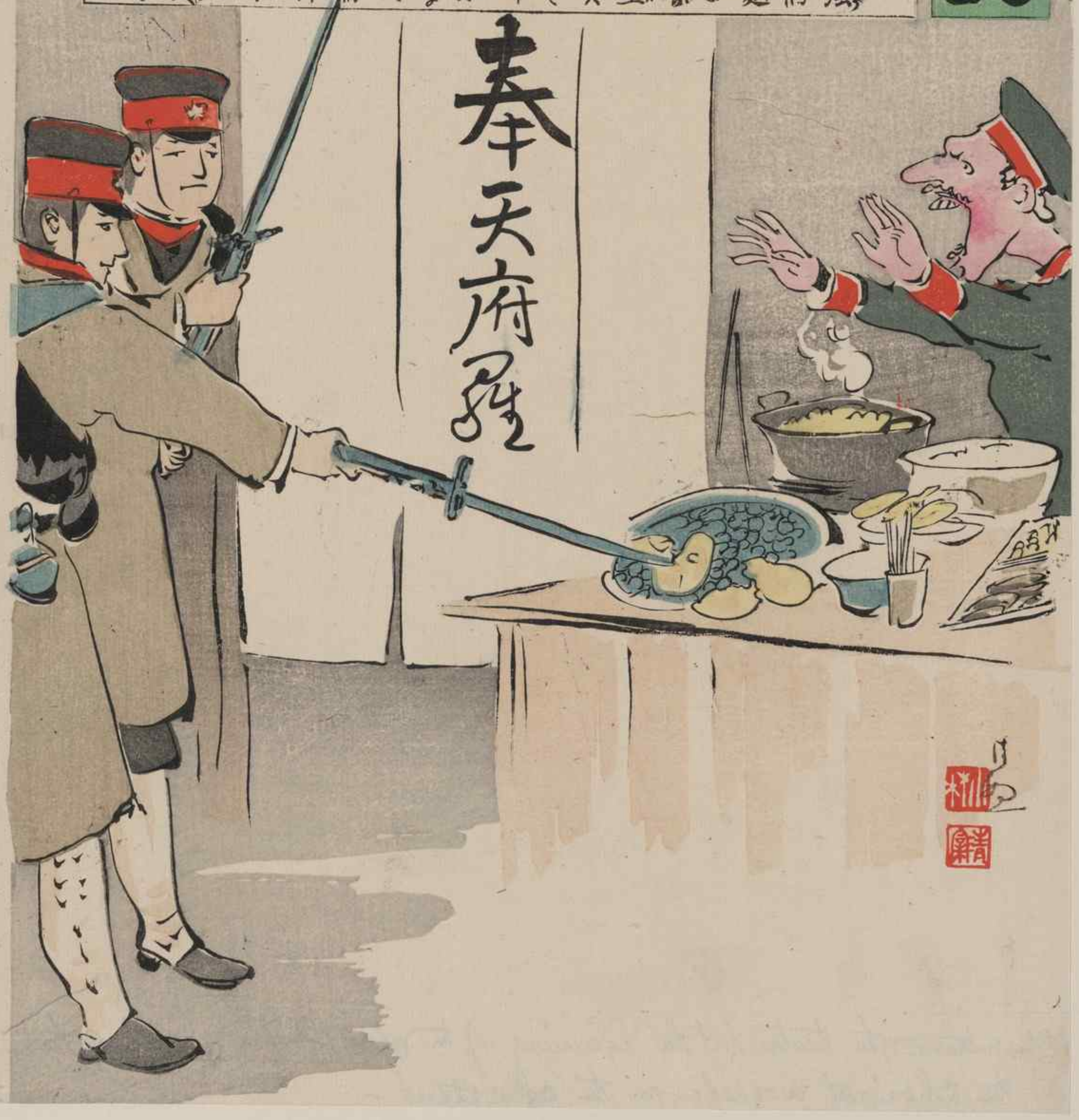
日本萬歳 百撰百笑

○奉天のチヨコ見勢　骨皮道人

開明らしく見世掛けて其内幕ハ極の野蛮強国らしい大法螺を吹て居ても其実際ハ木偶の坊同様の浅智恵し是が露西亞一流の天麩羅であるが、さて其天麩羅も、だん／＼日本に油を取られるが為に今となつてハモウ一杯食ふ者もなくなつたけれども其大将共の上色を飾つて、何處までも衣の洒唖突で居るのが、矢張天麩羅の本性ぞと見へて性懲もなく遼陽や沙河の方面で食止める計畫であつたが是も例の見掛倒しの天麩羅見勢だから、飯の上の蠅よりも造作なく直ぐヅドン／＼と打拂ハれる、ソコで今度ハ奉天へ逃て行て、奉天府羅と云ふチヨコ見世を開店したが、斯と知つた日本兵ハ又ぞろ／＼と押掛て行く　日兵「是ハ奴等ハ箸にも棒にも掛らぬ死露物だと云ひながら、その儘天府羅を目掛て突撃銃剣を突き通す「さアどうだ」と天麩羅兵ハ壓氣等漢として「どうぞ御勝手に願ひやす、元ハどうせ差揚物ですから」



明治三十八年四月一日印刷仝年仝月五日發行印刷兼發行者日本橋區吉川町二番地松木平吉（電話浪花二千三百八十六番）